

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：32717

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03280

研究課題名(和文) 北タイ、チェンマイの霊媒術と憑依文化の再編に関する人類学的研究

研究課題名(英文) Reorganization and Realignment of Religious Tradition: Anthropological Study about Spirit Mediumship and Practice of Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand

研究代表者

福浦 一男 (Fukuura, Kazuo)

桐蔭横浜大学・スポーツ健康政策学部・准教授

研究者番号：80425016

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：21世紀の北タイ、チェンマイの霊媒術と憑依文化の再編は、民衆文化の「創造性」発揮の典型例である。社会変動の中で自律性を保持し、独自の時空間を切り開く宗教実践の創造性は、今日の宗教研究において極めて重要な概念である。近代化やグローバル化のパラダイムとは別個のオリジナルな回路を經由してパフォーマンスに発展した儀礼の復興・勃興・再編成は、現代世界に対する地域社会の周縁性を相対化・馴致していくための戦略である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北タイの宗教文化実践の事例を手がかりに、現代世界の広範な社会変動と軌を一にしながら日常生活世界と交渉し、日常生活世界を再編成することが可能となるような文化実践の創造性を作動させるための条件について考察することができる。また、精霊憑依が個人(individual)ではなく「分人」(dividual)をつくりだすパフォーマンスな儀礼実践であることから、グローバル化や近代化のパラダイムとは異なる視座から社会や人間を問い直すための知・概念を構想することができる。

研究成果の概要(英文)：Reorganization and realignment of spirit mediumship and spirit possession in 21st century Chiang Mai, Northern Thailand would be considered as one of typical examples of popular culture exerting "creativity." The creativity of religious practices, which keeps up with social changes and opens up space and time in its own way, can be regarded as one of the most important notions in anthropology of religion today. Given that the recent resurgence, efflorescence, reorganization and realignment of rituals in the region have been developed performatively through alternative practices not directly related to paradigms of modernization and globalization, they can be regarded as strategies for relativizing and appropriating marginality of local societies face to face with the contemporary world.

研究分野：文化人類学

キーワード：チェンマイ 霊媒術 上座部仏教 憑依文化 分人(dividual) 宗教実践 創造性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)20世紀末以降の憑依宗教論の中で最も顕著なもの一つに「宗教現象の近代論」がある。ゲシーレやコマロフに代表され、グローバル化と呪術・憑依宗教の直接的関係を前面に押し出すこの立場は、種々の宗教現象を一律にグローバル化の影響に帰す還元主義に他ならない。広範な批判にも関わらず、今なおしばしば近代化やグローバル化のパラダイムを基調とする宗教現象論が見受けられた。

(2)従って、社会経済が宗教現象を生み出すのではなく、「宗教現象が特定の社会的世界を創造する」という認識に基づく調査・研究と理論構築を改めて重要視した。社会経済的「還元主義」の限界を踏まえた上で、宗教現象の多元性を重視し、社会的コンテクストに即して諸事例を検討することが必要であると考えた。

2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、近代化やグローバル化のパラダイムとは異なる宗教人類学研究の視座を発展させることであった。近代化やグローバル化のパラダイムとは別個のオリジナルな回路を経由してパフォーマンスに発展した儀礼の復興・勃興・再編成が、いかにして現代世界に対する地域社会の周縁性を相対化し、馴致していくための戦略となるのかを明らかにすることにあつた。

(2)そのため、北タイの低地民コン・ムアン (Khon Mueang) の宗教実践に関するこれまでの研究成果を踏まえ、「創造性」(creativity) すなわち民衆の宗教文化がもつ状況を変革する力という観点から、20世紀末に復興した現地の霊媒術の新たな局面に焦点を当てた。

(3)北タイの霊媒術と憑依文化の再編のアクチュアルな動態の諸相を考察することで、本研究は、多元性や異種混淆性を基調とする宗教文化実践の諸相の明示、及びその実践が社会内で作動する近代的な権力に与える影響力の解明を目指した。

3. 研究の方法

北タイ、チェンマイの霊媒集団内で近年顕著な活動を示す2つの有力なサブ・グループ、及び憑依文化を尊重する上座部仏教僧のグループが関係する年中行事的な宗教儀礼実践に関するフィールドワークを実施すると共に、これらのグループの主要な成員に対するインタビューを実施した。その際には、研究協力者との意見交換を恒常的に行うことで、調査・研究の向上に努めた。主な研究方法は、参与観察と半構造化インタビューを中心とするフィールドワーク及び文献研究であった。フィールドワークでは、必要な場合、調査助手を同行してデータの点検・分類・集計を一緒に行った。さらに国内外において日本語・英語での学会発表を実施し、他の研究者との活発な討論や意見交換を通して議論のブラッシュアップを行うと共に、国際的な研究ネットワークの構築に努めた。

4. 研究成果

(1)チェンマイの基柱の守護霊を崇拝する霊媒集団

東南アジア大陸部北部地域には13世紀末から20世紀初頭までランナー王国 (Lan Na) が存在し、チェンマイはその中心地であった。独自の上座部仏教・精霊信仰・霊媒術等が構成する一つのゆるやかな宗教性は、今日もコン・ムアンの人びとのアイデンティティの縁となっている。

市内に点在する歴史的な儀礼的象徴・記念像・建造物は総じて精霊信仰の対象であるが、中でも「インドラ神の柱」という名を持つチェンマイの基柱は最も重要な儀礼的象徴である。旧市街中央に位置するこの基柱の守護霊を崇拝する霊媒集団は、20世紀中頃以来、基柱に因んだ年中行事儀礼を実質的に取り仕切ってきた。

北タイの歴史を通して、基柱信仰は、それ自体の物質性及び守護霊の依代としての媒介性という2つの側面により構成されていたが、20世紀中頃に霊媒が守護霊の新たな依代として巨大な円形の高杯を創造した後、元来の基柱信仰の2つの側面である物質性と媒介性が分離され、後者は同様に高杯を用いるチェンマイの精霊信仰・霊媒術のコンテクストの中に合流していった。次第に、霊媒たちの集まりも集団と呼ぶに相応しい数へと拡大していった。

(2)霊媒集団の世代交代

21世紀以降、基柱を崇拝する霊媒集団にも徐々に世代交代の波が押し寄せてきた。2017年10月には、コア・グループの事実上の世代交代が行われた。職業霊媒の草分けとも言える人物から、地元の有力ビジネスマンの一人である人物へのパトタッチである。

さらに霊媒集団のフォーマルな統合の試みと再分化を経た、サブ・グループの伸張が顕著となった。20世紀末に新たに創造された「3人の王」儀礼は21世紀に入りチェンマイ最大規模の憑依儀礼へと成長し、この儀礼の円滑な実施と霊媒の相互扶助を目的とするフォーマルな互助組織「ランナー精霊協会」が設立された。しかしながら、軍によるクーデター及び霊媒間の路線対立に伴い、儀礼・互助組織共に、事実上の休止を余儀なくされた。その後、霊媒集団の中でも、「協会」の元幹部である2名の霊媒の宗教実践が顕著となった。

(3)トランスローカルな価値観に即した霊媒術の再編成

2名の霊媒のうちの一人名は70代の男性霊媒である。霊媒歴は約40年、主な憑依精霊はヒンド

ウー教の神々である。「天堂」(*thewalai*)と名づけられたチェンマイの住居は広大な敷地の中にあり、ヒンドゥー教の神・女神のための聖堂、精霊憑依のための聖堂や瞑想センター、瞑想修行のために来訪する信奉者用の無料の食堂・宿泊施設など、数多くの建物がある。土地・建物はすべて富裕層のビジネスマンの信奉者が寄付したものであるという。南タイのプーケットと中央タイの首都バンコクに数多くの信奉者がおり、小規模な「天堂」が各々の都市にも存在する。

この霊媒は、年間を通して3都市に存在する「天堂」を拠点としながら宗教実践を展開している。信奉者の大半は王族やプーケット市長をはじめとする中間階層・上層の人びとであり、海外にも信奉者が存在する。彼と彼の信奉者はSNSによるネットワークを構築しており、日常的に連絡を取り合っている。

この霊媒はトランスローカルな現代タイ社会の価値観を受容しており、常日頃から「ビッグ・ビジネス」に携わる彼の信奉者たちのスケールと重要性を賞賛している。彼の宗教実践は、社会生活の背景に宗教的な保証人を求める中間階層・上層の人びとの関心を惹き付けて止まない。

(4) ローカルな価値観に即した霊媒術の再編成

2名の霊媒のうちの一は40代の男性霊媒である。霊媒歴は約30年以上、主な憑依精霊はラーナー王朝時代の伝統的な都市国家「ムアン」(*mueang*)の守護霊である。彼は霊媒集団の中でも最も有力なサブ・グループの一つのリーダーであり、約20名の弟子の霊媒を抱えている。社会的地位の高い信奉者はほぼ皆無であり、貧しい人びとを助けることを良しとすると語る彼は、SNSを通して自己の儀礼活動を日常的に発信している。彼の家系は霊媒を輩出しており、曾祖母・祖母共霊媒であった。

この霊媒は、18世紀末から19世紀初頭まで王位にあったカーウィラ王に由来する2頭の獅子王像が立つ「ライオンの地」で実施される年中行事的な精霊憑依儀礼の主催霊媒である。少なくとも100年前から継続するこの儀礼は、近年では地元民のボランティア・グループである「ライオンの地保存クラブ」によるサポートを受け、県庁・市役所・町役場の協力を取り付け、チェンマイ県知事の臨席の下で開会式を挙行するに至っている。

この霊媒は、「ライオンの地」の獅子王像をはじめとするチェンマイの様々な史跡・記念建造物の重要性を理解している。彼と彼の霊媒グループは、巧みに、そしてパフォーマンスに地域社会と交渉しながら、自己の宗教実践をローカルな価値観へと再編成すべく、活発に活動している。

(5) 霊媒術の再編成と地域社会の周縁性の相対化

これらの2名の霊媒による霊媒術は、一見すると相反するように思われる。一方では、トランスローカルな価値観に即した霊媒術が、経済活動・社会生活の背景に宗教的な保証人を求めるタイ各地の中間階層・上層の人びとの関心を惹き付けており、他方では、ローカルな価値観に即した霊媒術が、地域コミュニティを拠点に、チェンマイの宗教的・儀礼的伝統の再活性化を指向している。

しかしながら実際には、両者は資本主義、グローバル化の影響など、より広範な社会変動と軌を一にしている。商業化・社会文化的均質化の只中にある現代タイ社会にあって、双方の霊媒術は、信奉者がそのような現実を再編成し、そのような現実と交渉し、そのような現実に打ち勝つことを可能にしている。

両者の宗教実践は、宗教的伝統の創造的な継承・発展の例示である。グローバル化や近代化のパラダイムとは別個のオリジナルな回路を經由してパフォーマンスに発展した儀礼の復興・勃興・再編成は、現代世界に対する地域社会の周縁性を相対化し、馴致していくための戦略となる。

(6) 宗教的シンクレティズム

これらの霊媒術のような新たな動きはその他の宗教実践者の間にも見受けられる。近年、霊媒集団による憑依儀礼の場の上座部仏教僧がしばしば姿を現し、霊媒たちと交流している。彼らの大半は「師」(*khu*)信仰を有する。「師」又は「師の霊」(*phi khu*)とは超越的な霊的存在であり、さまざまな領域において当該信奉者に超越的な力を授けてくれると見なされている。霊媒、民間治療師、伝統的工芸・技芸の担い手などの間で「師」信仰が広く認められ、「師の高杯」(*khan khu*)はその象徴である。

霊媒術と交流する仏教僧にはいくつかの類型が存在する。第一に、仏教僧の中には「師の高杯」を崇拜し、「師」の力に依拠してさまざまな儀礼実践を行う者がいる。霊媒と交流する仏教僧の大半が一年に一度自己の「師」を崇拜する儀礼を開催し、その際には知己の霊媒たちが出席するのが常である。第二に、仏教僧の中には、出家以前は霊媒であった者が存在する。彼らの多くは、出家後精霊憑依は止んだものの、尚も自らの「師の高杯」を信仰しており、他の霊媒たちの招待を受けて、霊媒術の儀礼に頻繁に参加している。このような上座部仏教僧の「師」信仰において、仏教僧の意識は何らかの形で超越的な霊的存在と交感していることになる。換言するなら、仏教僧は一種の心的分離状態を経験していることになる。このような信仰と呪術実践は明確に仏教と区別される。ルイスは、心的分離状態(*altered state of consciousness*)はトランスに他ならないと述べている。第三に、上座部仏教僧の中には、出家後も事実上霊媒として活動する者が存在する。総じて、霊媒と交流する仏教僧の中には霊媒の弟子である者が少なくない。

このように、近年の北タイ、チェンマイでは、霊媒と上座部仏教僧が「師」信仰を介して相互

交流・相互接続する事例が増加している。霊媒集団とインフォーマルな上座部仏教僧のグループは、互いに結び付きながら異種混濁的で多角的な関係性を構築している。

(7) 儀礼実践と権力

21世紀の北タイ、チェンマイにおける自律的で発展的な霊媒術の再編成、そして霊媒術と上座部仏教の宗教的シンクレティズムといった宗教実践の事例は、民衆文化の「創造性」発揮の典型例である。近代化のなかで自律性を保持し、独自の時空間を切り開く宗教実践の創造性は、今日の宗教研究において極めて重要な概念である。

このような宗教実践が可能となる背景には、北タイの歴史を通して、仏教宇宙のコスモロジーが宗教実践者や民衆の間で広く共有されており、このコスモロジーと共に、独自の上座部仏教・精霊信仰・霊媒術が一つのゆるやかな宗教性を構成してきたということがある。北タイの宗教文化の歴史的展開の経緯は、オフィシャルな上座部仏教の真正性を前面に押し出す一方で、精霊信仰をはじめとする民間宗教を周縁的なものと見なしがちな国民国家タイの宗教観とは大きく異なっており、そこには交渉や駆け引きをはじめとする宗教文化のポリティクスが存在する。このコスモロジーは、諸環境の中で自己の宗教実践を自由闊達に展開する宗教実践の創造性を作動させるための不可欠な原理の一つである。

さらに、チェンマイの霊媒術と憑依文化に関する諸事例はオルターナティブな権力のあり方についての更なる考察を迫るものである。フーコーが述べているように、近代社会では、身体の行政管理と生の経営を司る種々の規律制度や、身体の隷属化と住民の管理を手に入れるための多様かつ無数の技術としての生権力が作動している。しかしながら、精霊憑依現象が広く承認されている社会やコミュニティでは、成員の身体は常に同定可能なものではない。精霊に憑依されている時の人びとはそれまでの自己とは異なる人格を持つ。つまり、精霊憑依は規律訓練・生権力とのずれをつくりだすのである。精霊憑依とは、個人(individual)ではなく、「分人(dividual)をつくりだすパフォーマンスな儀礼実践なのであり、そこに時間性と空間性を伴う複数的な人間存在とその可能性が現前するのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 福浦一男	4. 巻 第92巻別冊
2. 論文標題 北タイ、チェンマイの「師」（khu）信仰の現代的展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『宗教研究』	6. 最初と最後の頁 412-413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） jpars.org/journal/bulletin/wp-content/uploads/2019/01/vol_92.pdf#page=414	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Fukuura	4. 巻 Volume 1
2. 論文標題 Reconfiguring Lan Na Religiosity: Interconnectedness of Religious Actors through Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 13th International Conference on Thai Studies	6. 最初と最後の頁 336-346
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://icts13.chiangmai.cmu.ac.th/documents/FINAL_A-G_MAY_2018.pdf#page=347	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福浦一男	4. 巻 第64巻3号（197号）
2. 論文標題 梅屋 潔著『福音を説くウイッチ ウガンダ・パドラにおける「災因論」の民族誌	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ソシオロジ』	6. 最初と最後の頁 148-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 福浦一男
2. 発表標題 北タイ、チェンマイの「師」（khu）信仰の現代的展開
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuo Fukuura
2. 発表標題 Resurrecting Lan Na Religiosity: Interconnectedness of Religious Practitioners through Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand
3. 学会等名 The 22nd Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia (ASAA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福浦一男
2. 発表標題 北タイ、チェンマイの宗教実践者と精霊憑依 伝統的な宗教性の再構成を巡って
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuo Fukuura
2. 発表標題 Reconfiguring Lan Na Religiosity: Interconnectedness of Religious Actors through Spirit Possession in Chiang Mai, Northern Thailand
3. 学会等名 The 13th International Conference on Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福浦一男
2. 発表標題 トランスローカルとローカル 北タイ、チェンマイの霊媒術の再編を巡って
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuo Fukuura
2. 発表標題 Ontology, Historicity, and 'Multiple Modernities': Examples of Spirit Worship and Mediumship in Chiangmai, Northern Thailand
3. 学会等名 Workshop on 'Relocating Mainland Southeast Asia in Spirit Possession Studies' at the Centre Asie du Sud-Est (EHESS) in Paris, France (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Fukuura
2. 発表標題 Resurrecting Lan Na Religiosity: Monks and Mediums in Chiang Mai, Northern Thailand
3. 学会等名 The 2019 AAS-in-ASIA Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福浦一男
2. 発表標題 現代社会と「再 = 呪術化」 東南アジア、タイの事例より
3. 学会等名 関西社会学会第70回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福浦一男
2. 発表標題 北タイ、チェンマイの宗教と社会変動 歴史的パースペクティブか
3. 学会等名 神奈川大学アジア研究センター「植民地国家と近代性：アジア諸国を中心とする比較研究」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----